

『喜び回復のクリスマス』 ルカの福音書 2章 8-20節 2018.12.23 アドベント第四主日礼拝説教より

『われらを敵の手から救い出し、われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。…暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。』 ルカの福音書 1:74-75,79
世界で最初に救い主誕生の知らせを聞いた羊飼いは、赤ちゃんを探し当て、全てがお告げの通りだったので神を讚美し、喜びに満ちて元の生活(現実)に帰って行く(2:20)。

❶ **失った喜びの回復のために**…救い主誕生が「喜び」なのは、それが人生に最も必要なものだから。それをアダムとエバは、神に背いた時に失った。その結果、女性は苦しんで出産し、夫婦関係は歪み、人は苦勞して働き、病み、老い衰え、やがて死んでゆく(創世記 3:16-19)。人は「エデン(喜び・楽しみ)の園」を追放され、創り主を忘れ、罪を重ねていく。御子は、その失われた喜びを回復し、人に笑顔を回復するために世に來られた。人が失った「本当の喜び」は、条件(お金や合格、結婚や家…等々)が満たされて得るものでなく、どんなに納得がいなくても「にもかかわらず」喜べるもの。どんな状況でも消えず、内側から溢れる喜びは、その源である方に繋がっていればこそ。イエス様に罪赦され、救われること以上の喜びはない！

❷ **恐れることはない**…神のお告げの前置きは常に「恐れるな」だったが、救い主は、人を恐れさせることのない赤ちゃんの姿で來られた。イエス様は、誰とでも出会い、親しく話し、誰もが自分を通して父なる神に近づけるようにされた！これこそ神が下さる最高の喜び。イエス様は絶望の叫びをあげて十字架に磔にされ、誰よりも深い絶望の底に墮ちた後、復活されて今ここに私たちと共におられる！この方がどんな暗闇も光に変えてくださる。どんな祈りでも聞いて、必ず応えてくださる！これこそが、「にもかかわらず」喜べる理由！この世の辛酸を舐め尽くされた方(イザヤ 53:3-4)が、「もう泣かなくても良い」と涙を拭い、慰めてくださる。そして、「もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみは過ぎ去る(黙示録 21:4)」という、究極の喜びを約束される。「にもかかわらず」喜べる、究極の喜びは、死を越え、苦しみを越えて、悲しみの涙の向こうにある、復活の希望！

★あなたは、「恐れなく近寄れ」と語りかけられる方のすぐそばで、ありのままの嘆きと、思うままの思い・叫びを聞いてもらい、「にもかかわらず」の喜びを回復されたか？あなたは、どんな死の陰の谷、災いの道を歩もうとも「恐れない」安心をくださる御方と共に生きているか？